消費者・行政関連情報

特別インタビュー

特別インタビュー　アドバイザリースタッフ研究会　代表世話人　千葉 一敏 先生に聞く

「健康食品に関する資格」の有効活用について

有資格者の受け皿となって側面支援

情報媒体の発行や研修会開催などを通じて

2013年3月をもって、NR（栄養情報担当者）協会が活動を終了し、「アドバイザリースタッフ研究会」として新たにスタートしている。健康食品に関するアドバイザリースタッフの育成と有効活用は行政の指針にもあるが、現場においては思うように進んでいない現状もある。そうした経緯のなか、NR協会の副理事長をつとめた千葉一敏先生が、代表世話人となって今年4月に「アドバイザリースタッフ研究会」が発足した。千葉先生に同会の趣旨や今後の活動方針などについてインタビューした。

アドバイザリースタッフ研究会
代表世話人
千葉 一敏 先生
（NR・サプリメントアドバイザー、薬剤師、健康栄養補助食品協会理事）

――健康食品について正しい情報を発信する専門家としてNR（栄養情報担当者）の役割に本紙も期待していました。このたび、諸事情によって新たなスタートを切ったわけですが、そうしたなか「アドバイザリースタッフ研究会」というものを立ち上げた経緯などについて教えてください。

千葉　NR協会の活動終了は、NRの有資格者である私たちにとっても残念なことではありません。しかしNRそのものがなくなったわけではなく、「NR・サプリメントアドバイザー」として今後も継続していくことになっています。このたび「アドバイザリースタッフ研究会」を発足した背景には、NR協会の活動を通して学び経験してきたことを活かし、一方で課題となっていたことなどの解決策を提供できないだろうかといった思いがありました。

――課題とは具体的にどのようなことなのでしょうか？

千葉　第一は有資格者の活動の場が広がらなかったことです。NRはご存知のように医学・薬学や栄養学などの専門的知識をはじめ関連法規のコンプライアンスまで幅広い知識を有する資格です。しかし深い専門的知識があっても、消費者のために十分に役立てる場所や機会があったかというと、疑問符をつけざるを得ません。一部のドラッグストアなどでは、NRが対応することをセールスポイントにしていたケースもありましたが、肝心の消費者がNRのことを知らないというPR不足の面もありました。

――たしかに認知向上は大きな課題だったと思います。

千葉　ただし、これはNRだけの問題ではなく、健康食品にかかわる他のいくつかの資格制度においても共通する課題であると考えます。しかしその一方で、各種の資格を取得された方々の多くは非常に勉強熱心であり、常に最新の健康情報や行政情報にも敏感で、資格の有効活用のための準備に余念がありません。このたび立ち上げた「アドバイザリースタッフ研究会」は、NRのみならず各認定団体が認定した有資格者の方々を側面から支援する団体の必要性から立ち上げたものだとご理解いただきたいと思います。

――具体的な活動方針などについて教えてください。

千葉　「アドバイザリースタッフ研究会」の発足は4月で、5月から活動を開始しています。まず会員の獲得ための第一歩として、メルマガを関係者に送信して会の趣旨をご理解いただくことから始めました。現在、月1回のメルマガによる情報提供が活動の柱になっていますが、8月と9月には、大阪と東京で第一回目の研修会を実施いたします。来年の2月、3月にも、東京、大阪、福岡などの主要都市でも研修会を字資する計画を立てています。

勉強熱心な有資格者のために有益な情報の充実をはかる

――メルマガが主な情報ツールになっているようですが……。

千葉　研究会は、無料の会員登録制となっているので、低コストでの運営を考えています。それで当面は電子媒体を活用していく予定です。月一回のメルマガのみでなく、ホームページやブログを通して、さきほども申しましたように勉強熱心な有資格者の方々に満足していただけるよう、行政情報をはじめ各種研修会の案内、健康関連素材等に関する最新の文献情報なども盛り込みながら充実をはかっているところです。

――運営資金については？

千葉　基本的に会への入会金は無料とし、研修会を有料にすることで対応していく予定です。

――当面の目標などがありましたら教えてください。

千葉　NR・サプリメントアドバイザーをはじめ各資格の取得者がおおよそ2万超といわれています。このなかの1割である2000人の会員数を確保することを当面の目標としています。消費者の方が健康食品を正しく利用できるための情報提供の専門家である「アドバイザリースタッフ」のサポートを少しでもできればと考えています。各認定団体や有資格者の団体と連携を取りながら活動をしていきたいと考えています。

――本紙としても、できるかぎりのバックアップをさせていただければと思っています。

千葉　広報関連のご協力をいただければ助かります。よろしくお願いいたします。

――ありがとうございました。